

2017年、いのちの尊厳を守る闘いの正念場！

働くものの権利と誇り、憲法を無傷で未来のこどもたちへ



新年のごあいさつ

練馬労連議長

金田 安夫

練馬労連に結集される加盟組合の皆様、私たちの運動に協力、共同していただいている労働組合、民主団体、平和団体の皆様、明けましておめでとうございます。

日頃から憲法を生かし、労働者の働く権利と暮らしや命を守り、平和で国民が真に大切にされる社会の実現を目ざして、力強く奮闘されていますことに心から敬意を表し、厚くお礼を申し上げます。

今年、日本国憲法施行70年の節目の年です。戦後、日本国民は、20世紀の悲惨な戦争の歴史の反省にたち、アジアの人々をはじめ、世界の人々に、戦争の放棄を宣言し、日本国憲法を確定しました。戦後の国際社会の中での信頼を回復し、復興発展を支えてきたのは、まぎれもなく日本国憲法の存在です。戦後、軍国主義からの脱却、真の民主主義国家の建設に向けて、その基盤となる日本国憲法が制定されました。GHQや日本の憲法学者らの真摯な努力によって、当時の世界の国々の憲法の良いところ取り込み、「国民主権」「戦争放棄」「基本的人権の尊重」を柱

です。施行70周年を迎えた日本国憲法の先駆的な内容は、今日でも、平和な世界の実現、大いにその存在価値が賞賛されています。

昨年、安倍自公政権は多くの国民の反対の声に耳を傾けることなく、憲法違反の「戦争法」の具体化、地方自治の否定、生存権の侵害などの悪政を強行しました。日米安保条約に基づく米軍再編の名のもとに、辺野古新基地建設や横田基地を含め全国にオスプレイの配備を強行しています。原発の再稼働やTPP参加をはじめアメリカや財界の意向を最優先させる政策を推し進める一方で、毎年社会保障費を削り、低賃金で不安定な雇用を広げ、景気の悪化や貧困層の拡大を助長しています。今後、更なる労働法制の改悪を狙っています。日本の未来に重大な危険が広がっています。

今年、安倍自公政権をはじめ、改憲勢力が進めようとしている日本国憲法の改憲につながる動きは何一つとして認めるわけにはいきません。平和と人権を尊ぶ日本国憲法を変えさせることなど、人を愛し国を愛し平和を愛する人なら、絶対に許すことはできないはず。このまま、憲法への様々な攻撃を見逃すわけにはいきません。今を生きる私たちだけの問題ではありません。子どもたちに無傷で「日本国憲法」を手渡すために、共に手を取り合って力を尽くそうではありませんか。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2017年練馬労連新春のつどい

1月13日(金)午後6時30分、東京土建練馬支部会館3階大研修室を会場に、東京地評をはじめとする来賓、日本共産党区議団や区内友好団体から19団体28人、JAL争議団、郵政20条裁判原告、そして加盟労組から13労組、50人と、多くの参加で行われました。

東京地評の森田議長



東京地評の森田議長の来賓あいさつに続き、戦争法NO!や最賃運動で共同をすすめてきた練馬区労協、練馬全



練馬全労協真下事務局長

練馬区労協松沢事務局長

労協から、今後のさらなる共闘が語られました。



天法楽さんのウクレレ漫談「島唄紀行」に琉球舞踊で楽しんだ後は、加盟労組郵政ユニオン練馬支



ナレーターは特別出演の吉沢さん(右)熱演の郵政の仲間(下)と原告の浅川さん(左)

部の仲間の朗読劇。「現代版蟹工船、2017年1月職場での会話から」と題して、正規と非正規社員とのリアルな会話が語

られました。台本作りを準備し、この日は10人を超える郵政の仲間が参加しました。

また、現在20条裁判の原告浅川喜義さんも参加していただき、支援を訴えました。



参加者」からは「え？本当の話？」「そんなことがあるの？」との声も。今回だけの上演では実にもったいないものです。



加盟労組の中には、勤務体制の都合上どうしても参加できない仲間が多くいます。



向山保育園のみなさん

仕事が終わってから駆けつけてくれた福祉保育労の向山保育園。3人の保育士さんが「普段聴くことのない他の職場の話を聞いて、参加してほんとによかった」と会場に花を咲かせてくれました。恒例の手調理に舌鼓みを打ちながら、語り合い2

0174年の闘いへのエネルギーを蓄えることのできたつどいとなりました。

2017年も知恵と力の総力戦で頑張りましょう！！

